

 **第8回キャリア教育カフェ実施報告**

研究推進委員会の企画「第8回キャリア教育カフェ（キャリア教カフェ 8）」の報告です。「キャリア教育カフェ（キャリア教カフェ）」とは、自由な研究交流を行う場であり、冒頭に短時間の話題提供をゲストにさせていただき、その後は参加者全員でざっくばらんにトークし、これからのキャリア教育を考えるライブ感覚の交流の場です。

2022年7月5日（水）19:00-20:30、オンラインによる第8回キャリア教育カフェ（キャリア教カフェ 8）が開催されました。今回はゲストに永井悠大先生（認定 NPO 法人 Homedoor）をお招きし、「ホームレス支援から考えるキャリア教育」というテーマで話題提供をいただきました。

永井先生からは、認定 NPO 法人 Homedoor が設立時、ホームレスの“おっちゃん”支援から今では半数を占める 20~30 年代の支援が主になっていること、「仕事」、「貯金」、「住まい」の負のトライアルに加えて、携帯電話を持ってないことが就職のネックになっていることなど詳しくホームレス支援の現状を聞くことができました。また、無差別平等の原理を理解するとともに、生活保護などの法律なども小学校の段階から教えて欲しいと力説されていました。講演後の質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられ、ホームレス問題とキャリア教育を考える良い機会となりました。

アンケートでは、「このような NPO の存在に大変勇気づけられました。生活保護行政の適切な在り方について、行政から発信できないといけないと強く思いました。また、保護を必要とする人たちのキャリアについて精緻に支援し、自立を促す仕組みづくりが必要とも思いました。」「人々に知らしめることの重要性を改めて感じるどころです。・・・単に『ホームレス』『生活保護』を主語にした内容のものには受け手側も留意する必要があると感じています。そういったあたりも学校教育の中で、リテラシーとの関連で扱えるものだと考えます。」「永井悠大さんのホームレス支援の現場現状がわかり非常に良い内容でした。私たちが、課題とする様々な支援や教育。その狭間からこぼれ落ちてしまいかねない子どもや若者たちへの問題と捉えることができました。学校や行政が様々な活動に特化した NPO の活動を通して今を知ることの大切さを感じました。」「永井さんが、教育機関（キャリア教育）で、『生活保護について』『生活保護を受けられる権利について』教育すべきであるとおっしゃっていたことが印象に残っております。〇〇のような人、僕は好きなんです”とおっしゃられ、『余白のある社会』をつくっていききたいとの言葉が心に響きました。人は、何をもってよしとするか、何に意義・価値があるか、何が幸せか、その枠組みを強制されずに、自ら感じられるように、『一人ひとりみんなが生きやすい社会』を、一人ひとりみんながつくっていききたいと思いました。そのために、自分が、キャリア教育実践者としてできることを考えてまいります。」等、多くの貴重な感想をいただきました。

皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

研究推進委員会委員 松下 眞治  
(元大阪市立西高等学校)